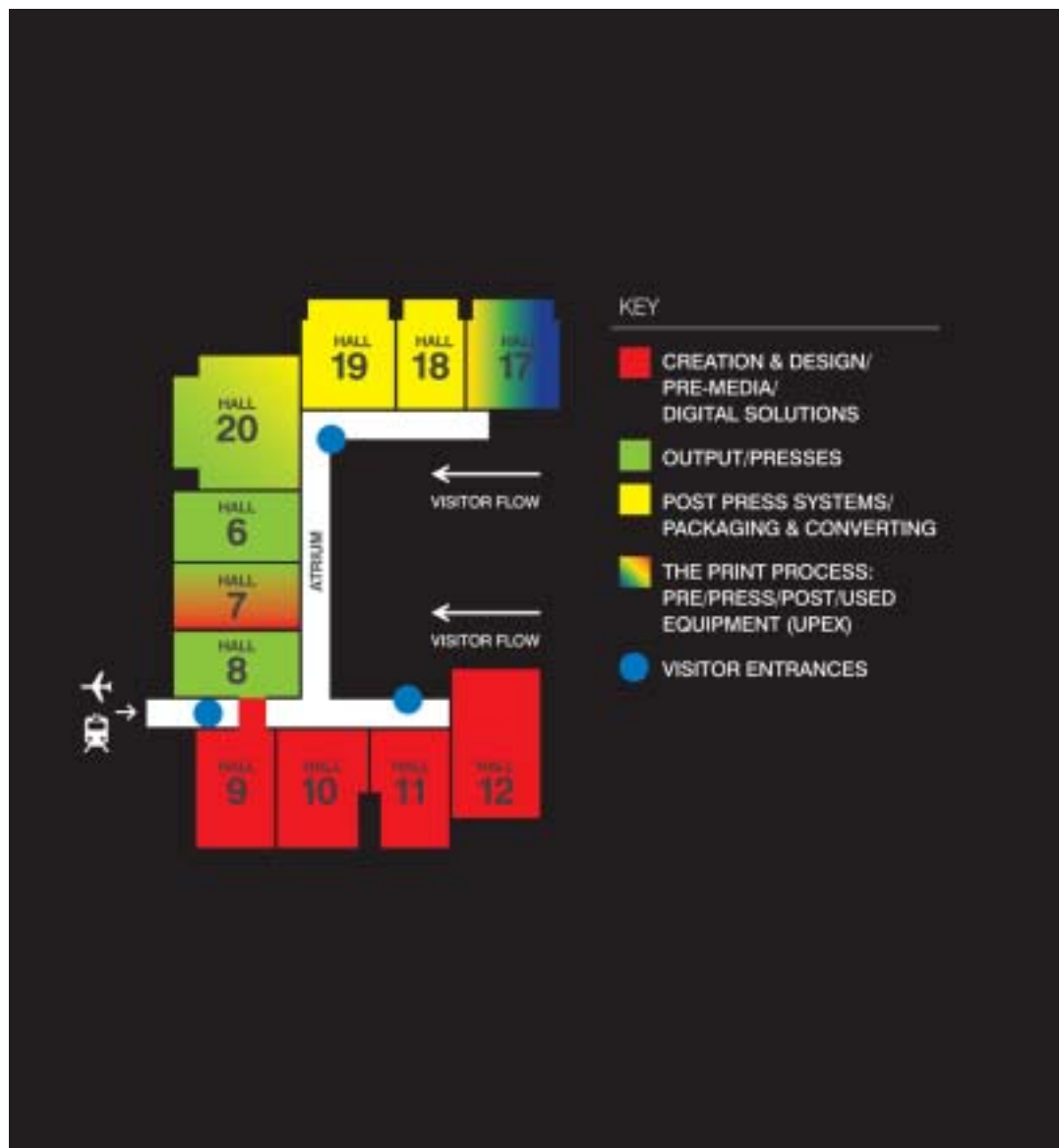




# Ipex2010見聞報告

## 五百旗頭 忠男

2010-7-9



- 5月18 ~ 25日 8日間
- Birmingham, NEC
- 印刷会社 50,000人以上
- 出品者関係20,000人
- 報道関係500人
- 海外比率48%、+6%
- 77%購買意思決定者層

# デジタルプレスIpex2010 最大出品ブースはHP



GENERAL  
COMMERCIAL  
PRINTING

TOMER KIOSK

HP CUSTOMER KIOSK

PROGRESSIVE PROFITABLE PRINTING 



- デジタル系印刷機が支配的なテクノロジーになりつつある。
- 展示スペースの約38%が、今回(プリメディアを含む)はデジタル系出品社によって占められた。
- アナログ系メーカーのスペースのシェアは今回、2006年の64%から26%まで急落

デジタル系印刷機が始めて、アナログ系印刷機メーカーを凌駕する地位を占めた国際展

- Ipex 2010展示会会長のトレバー・クロフォード(英国ハイデルベルグ社社長)

「企業数の減少にかかわらず、2006の訪問者数とほぼ同水準となった。事前の包括的な国際キャンペーンにより、購買意欲のある層を動員できた。」

「40カ国、1000社以上の出品者の売り込み、エキサイティングな新しいテクノロジーの登場と相まって、訪問者は自信回復の気にもなり、未来への投資に動いてくれた。」

- Ipex2014の展示会会長は始めて、デジタル系印刷機のキャノンヨーロッパの社長・デイビッド・プレスケット氏が就任

- Ipex展は出品者にとって商売に結び付いた展示会

HPは5日間で計画販売数(ノルマ数)を上まってしまった。

ゼロックスはここで100以上のデジタルシステムを売った。

キャノンは本格生産機と軽生産機を含め250台を売り切り、目標を超えた。コニカミノルタは3日間の注文で、展示会出品費用を超えることができた。ハイデルベルグは英国だけで140ユニットを超える受注をした。

AGFAは全世界で2500万ポンドを超える受注を確保。

Duploは200万ポンド以上の受注ができた。

KBAが、Rapida106と言う新鋭機でなく、Rapida105と言う2番手機を敢えて出品、見事にトルコの一見客から即決注文をしとめた。30台の注文を取った。

- Ipex2010の展示社数の1/3は新規出品社
- Ipexはまさに、新参者の顔見せの場と化しているとも言える。
- 特に目立ったのは、web-to-printとクラウドサーバーを掲げたRed Tie
- 斬新なデジタルコーティング加工印刷機として登場してくれたイスラエルのScodix



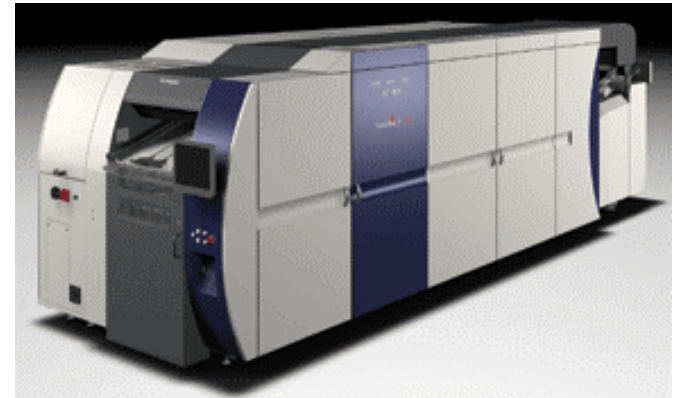
Scodixはいわばデジタル方式のニス引き・つや出し・エンボス加工機で、デジタルが枚葉オフセットの良さに肉薄して来ていることを印象付けた。

# インクジェット輪転印刷機

- drupa 2008では、新しい記者発表、入手不可能
- IPEXでは、ほとんどが今や、製品化
- IPEX の直前に、Oceジェットストリーム1000 (単独エンジンの両面印刷機) の発表
- 新HP T200プレス 20インチのweb、単色またはカラーで単独エンジンでの両面刷 新しいインクジェット機の数機種は紙にインクジェットをプレコート
- 大日本スクリーンのTruepressジェット520CP、標準のTruepressジェット520より50%低い運転速度、納入後アップグレードできる
- Infoprint Solutionsは標準Infoprint 5000プレスの同等のモデル
- ゼロックスの実演 熱せられたプリントヘッドの中で液体に変換し、紙との接触時点で固体に戻るように変換する小さな粒状のインクペレット、低価格の非塗工紙に印刷できる 600dpiの解像度で最高150メートル/分
- コダックProsper XL5000プレス 200メートル/分のスピード デュアルエンジンコンフィギュレーション印刷・フルカラー
- ストリーム輪転用ヘッドで商業用の品質を備えたものをいつから製造 ?



# B2サイズ・デジタルプレス



今回は実演して見せた。

まだ、製品として詰めてみる要素はあるものの、予約販売を開始し出した。時間がかかったのは、新しい技術開発が容易なものではないことがうかがえる。

B2デジタル印刷機としたことで、印刷会社からの反響がいたって大きいのだ。印刷後は、既存の製本加工ラインが生せて使える。サイズアップにより製本の加工能力はB3とは違って、一段と上がってくれる。つまり、既存のオフセットと同じ加工方式で動かせるのだ。

この機械はオフセット機の領域に踏み込んだ機械と考えるべきで、印刷工程は前準備なし、版なしという利点で新ジャンルへの切り込みが効く。

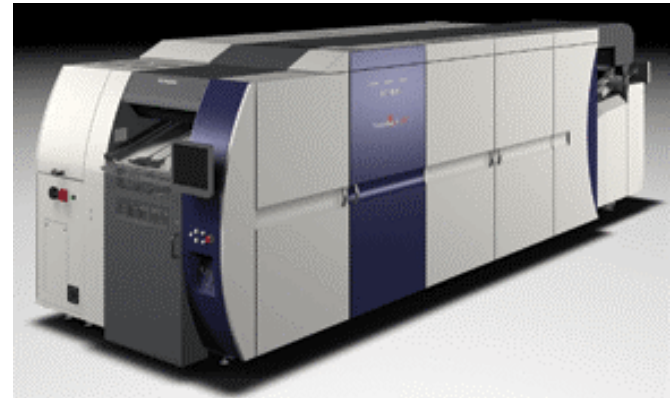
# B2サイズ・デジタルプレス



Jet Press 720

プレコートあり

片面印刷



Truepress Jet SX

プレコートなし

Duplex、両面バリアブル印刷

Xeikonでは、B2サイズを巻き取りで処理してくれ、最新のXeikon 8000(トナー方式)は、両者のインクジェット印刷機よりかなり速い。

インクジェット印刷インテグレーター、Atlantic Zeiserの汎用インクジェット印刷モジュール

# インクジェット・デジタル印刷機の死角

1. **高い用紙**を使う。  
オフセット紙より30～40パーセント高価につくかもしれない。  
プレコート材を塗布すると、この追加の消耗品代を考慮
2. **利用可能な紙に制限**あり。  
非塗工紙の上で印刷することを得意としているが、いくつかは塗工紙をより得意。今現在、インクジェット印刷で利用可能な紙の種類には制限
3. **高価なインク**を承知で使う。  
DTPプリンターのインク代はシャンパン代に匹敵する価格。  
ヘッドはある一定使用期間の後の**消耗品**となる。
4. **クリックチャージモデル**は生き残るであろうか？

# ジャデソン社のQプレス

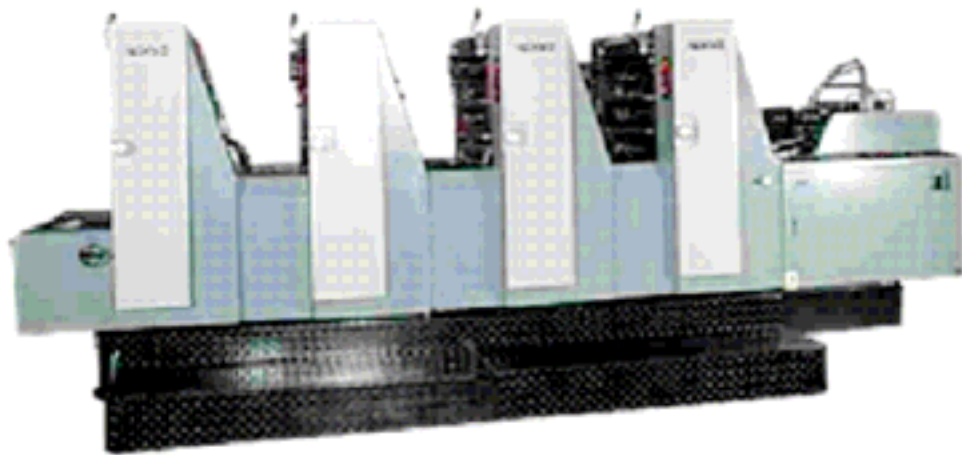
- トナー方式のB2デジタル印刷機。クリックチャージなし、1機が3500万円という価格が魅力ではある。
- Drupa2008に登場、日本の技術者が中心となって作り上げた機械である。
- 中国でまだ、3台の納入実績しかない。
- 事務機感覚で機械を作ってみたが、機械強度が十分でなく、フレームを強化し、サクシオンヘッドを搭載したものになった。
- やはり、その開発には思いのほか、時間がかかっている。新機種の開発は決して生易しいものではない。

- **ひたひたと、中国メーカーの存在価値が高まっ  
てきている**

Made in Chinaと言う、A5判・64ページの冊子を作り、500社からのメーカーを紹介していた。CTPから、印刷機、製本加工機、紙器加工機、印刷資材消耗品など多岐にわたるもので、中国パワーは従来の印刷分野では急速に力をつけつつある。

- **Hans Gronhi (Printers Superstore)**

中古機並み価格、新台 + セッターつき



- 会期中に上海電気がGoss Internationalを完全に買収したと発表された。
- 上海電気はアキヤマ印刷機を買収していて、これで日米中とでネットワークを組む体制が整ってきた



- IpeX2010でプリントチャンピオン賞を授与された、RITのフランク・ロマーノ教授がパネラーの中心
- 印刷の未来は？
- 紙印刷を超えるものは何か？
- エコ印刷とは？ などのテーマ

- ゲーテンベルグが印刷術を発明して以来、最初のゲーテンベルグを除き、印刷価格は歴史的に見て低下の一方をたどった宿命にある。ゲーテンベルグが印刷術をこなし、独占であったがゆえに、独占価格をつけていたのは有名な話である。ところが、ほどなく競争者が現れ、以来、今まで印刷価格は下がりっぱなしの軌跡をたどっている。
- ロマーノ教授が業界に入った1959年、活字が全盛の時代で、新勢力のオフセットは早い汚い印刷と揶揄された。90年代に入り、トナー印刷が現れた時も、同じ口実が言われていた。2000年になりインキジェットが現れた時も、あれは...と同じ口実で揶揄していた。ところが時がたてば、新技術は成熟してくれ、人々に受け入れられてくる。印刷人は印刷物をきれいに刷ることが、価値を生むと考えがちだが、そうではないのだ。他者と同じレベルの合理化競争を続けた結果、印刷物はコモディティ価格(日用品価格)に甘んじてしまった。他者と一味違うことをして、付加価値と言うものは生まれるものだ。



- ロマーノ教授はグリーン印刷(エコ印刷)など、米国では現実的でない議論だと一喝してくれた。米国の印刷バイヤーの89%は価格重視と答え、グリーンへの要望割合はいたって低い。出版物なども、末端では25%は破棄されているが、これをオンディマンド対処して破棄分の節約を図ることには確かに意味はあろう。
- しかし、印刷会社がグリーン化へ対処する方策は限られている。印刷物がむやみに破棄されるのは印刷会社の責任でなく、バイヤーの発注の仕方に問題があるのだ。
- また、紙にしる、インキにしる、諸資材は全て出入り業者から買っていて、出入り業者、メーカーに頑張ってもらえば印刷会社は自然にグリーン化が図れるのだ。(会場から大変な拍手が起きる)

- 現在の状況は印刷の歴史始まって以来、印刷人が始めて印刷競合物に遭遇し、印刷物を取られっぱなしになっていることを印刷人は自覚しないといけない。米国の商業印刷物の25%は電子化のため仕事が消滅してしまった。
- あるいはeメールへ、あるいはpdfへ、あるいはホームページへと移行してしまい、いったん移行したものは紙へは戻ってこない。
- さらに、個人がプリンターを所有し、このおかげで商業印刷物はさらに、25%減ってしまった。合計、50%の紙印刷は競合媒体のとられているのだ。そこまで取られていないと言う見方もあるが、情報量が増え一部は新印刷需要にもつながるが、既存ベースで見るとこのような数字になる。
- すると、印刷会社だけでなく、機械メーカー、紙メーカー、この皆さんのコンサルタントまで減らされていく運命にある。よって、紙印刷に固守しない新ジャンルに印刷人は打って出ないといけないのだ。

- 紙ばかり考えないで、布、建材、マット、ありとあらゆる分野への市場を模索すべきだ。さらに、**工業製品の印刷**での消化を考えていくことだ。
- あるいは、印刷を核とし、フルフィルメント、データベース構築、DMサービス事業、マーケティングサービス事業など、**顧客が厄介がる分野**に手を染めて行くことだ。

# 欧州の水なし印刷

欧州の水なし版はKBAのコルティナ新聞輪転機での採用のおかげで、確実に実績を積み上げている。

オランダのエコプリントセンター (EPC) (デ・モルゲン紙のDe Persgroep (ベルギー) 出版社の子会社) は世界で始めてバタフライロゴをつけた日刊紙を印刷

輸出品の関係で欧州での水なし版の価格はPS版の倍以上についていて、価格競争の熾烈な商業印刷では低調





- CENTRUM社(ポーランド)は小森リスロン40水なしUV印刷機を昨年末導入
- 蒸着紙、ポリプロピレン、PET、およびレンチキュラー系の素材などの非吸収性素材の印刷に絞っている。
- McDonalds、コカコーラ、ユニリーバ、マイクロソフト、ジレット、CEDC(Central European Distribution Corporation)、およびバイエル
- 印刷革新リーダー第1位 受賞

- 英国のインキ会社、Classic Color社などは売上の97%は水なしインキ
- 最近では6割が水なしUVインキを占めるようになってきている。
- 同社はUV水なしインキの供給で欧州では確固とした地位を築いている。
  
- イスラエルのVIM社は高耐刷力・現像なし・水なし版をIplexで発表する事前アナウンスをしていたが、特許係争の余波で、来年に発表延期となってしまった。
- その面目をIGAS 2011展の場で発表したいと意気込んでくれてはいた。
- これに合わせる形としたいが、IGAS2011展では第2回世界水なし印刷会議を推し進めてみたい。

# キーレス・アニロックスインキ機構 (アナログ機のデジタル対抗機)

- 水なし分野でKBA社が52サイズでGenius機
- 水あり分野ではハイデルベルグが52サイズのアニカラー機を世に出している。
- デジタル勢に対抗すべく、74サイズ機の登場が待たれるところである
- 両社とも次の機会には新製品として登場させるのではないだろうか？
- 枚葉オフセット機のデジタル機へ対抗の一つの流れであろう。

# たわごと

- 日本の中小印刷会社は国内市場にだけとられず、海外市場に目を向けて進出を図るべきとの声が昨今出てきている。
- ここでぜひ、我々が目を向けたいことだが、日本のデジタル印刷機メーカーとのコラボレーションの下での海外事業進出を模索するのが方法論
- 日本のデジタル印刷機メーカーは多数あり、幅広い印刷分野をこなしていて、しかも、世界でもそのブランドは通っている。
- 次世代ではアナログ系印刷機の欧州勢に取って代わるチャンスを持ち合わせている
- 日本のデジタル系印刷機メーカーが開発した新製品を日本の印刷人がいち早く導入して、その使いこなし方を確立し、その反対給付として、デジタルメーカーの助力を得て、メーカーにも役立つ形で世界に出て行く姿
- 特に、発展途上国などでは一気にデジタル印刷へ突き進むものと思われる。
- 日本の印刷人にはデジタル印刷機と言う、強い身内(資産)があることを見落としてはならない。



- 来年はIGAS2011展が東京で開催される。
  - それまでに、我々日本の印刷人は日本のデジタル印刷機を導入して使いこなし、IGASの場で使った結果の優れた実績を世界に発信する
  - デジタル化の流れを眺め、嘆いていても我々の地位は向上しまい。
  - 日本の印刷人が持ち合わせている、隠れた資産を今こそ活用する時代に来ている
- 
- IGAS2011展では第2回世界水なし印刷会議
  - 水なし旋風を世界に発信

**ご静聴有難うございました**